

まえがき

安岡正篤やすおか まさひろ先生は一介の無位無官の市井しせいの人であり、御自身は処士しひよ（民間にあつて、任官しない人）をもつて任じられた。しかし、人は「一世の師表しひよ（模範）」、「天下の木鐸ぼくたく（社会の指導者）」、「稀代の碩学せきがく」等々と称した。

鬼籍きせきに入られすでに四半世紀を過ぎたというのに今なお多くの人が先生御自身みづかみの著作はもちろん先生の講話・講演録、その他様々な先生に関連した書物を通して、先生に親炙しんしや（親しくその人に近づいて感化を受ける）している。偉大な人物とはまさに先生のような人と言うのであろう。

私は縁あつて高校生ぐらゐに先生の著作に出合い、爾来じらい多くの先生の書を何

度も味読させていただいてきた。そのたびに私は、徳薄く、才足らない私の人間としての成長にそうした読書が如何に役立ったかを考え、感謝に堪えない。

本年七月に致知出版社が主催された安岡先生に関する講演会に私は講師の一人として招かれ、『今に生きる「安岡教学」』というタイトルでお話をさせていただいた。本書は、その講演内容をベースに若干の肉付けをし、書としての体裁を整えたものである。

私が、本書を上梓することにしたのは、安岡先生の書から受けた学恩に感謝の誠を捧げようと思ったのと、微力ながら先生の教えを若い世代に伝えなければと考えたからである。まさに宋の大儒張横渠ちようおうきよの「去聖きよせいの為に絶学を継ぐ」といった一種の使命観である。

今日の日本は様々な意味で難局にあり、この打開には人物の育成しかない。

「安岡教学」は今こそますますその輝きを増していると言えよう。本書が安岡教学の入門書になればと願う次第である。

平成二十一年十一月

北尾吉孝